



「けやき」通信

こもび 「木洩れ白」(其の130)

2023年3月30日発行

社会福祉法人 九十九会 生活介護事業所「けやき」

〒299-4403 千葉県長生郡睦沢町上市場 693

☎ 0475 (44) 2888

「もやもや」

施設長 西 希仁

先日、事故で亡くなられた聴覚障害のお子さんの障害賃金額についての裁判が報道されていました。争点となったのは「逸失利益」と呼ばれる、事故に遭わなければ将来得られたはずの収入。判決で大阪地裁は「死亡時の聴覚障害者の収入は全労働者の平均と同程度であったとはいえない」。一方で、「亡くなった児童は勉学や他者との関わりに対する意欲と両親による十分な支援があったことを考慮すると、将来的には様々な就労の可能性があった」と述べました。その上で、聴覚障害者の平均年収は上回るものの、両親らの求める全労働者と同じ額までは認めず、その85%にあたる約422万円で年収を計算すべきとの判決を言い渡したそうです。

この報道を知って、なにか、いろいろと「もやもや」を感じました。

この報道から感じた最初の「もやもや」は、「事故に遭わなければ将来得られたはずの収入」という表現。事故にあうとか、病気になるとか、障害を持つとか、就職した会社が倒産するとか、親の介護のために退職するとか…そんなことがないと言い切れる人生なんてあるのでしょうか。

そして次の「もやもや」は、「事故に遭わなければ…」から勝手に連想した「障害を持たないで生まれていれば将来得られたはずの収入」という表現によるもの。この事故は加害者がいたから起きた。しかし、果たして加害者だけの責任なのでしょうか。毎年毎年、死亡事故で約5,000人が亡くなります。毎年、5,000人が一度に死ぬ事故があれば、きっと、そんな事故を二度と起こさないようにいろんな対策が取られるはずですが、でも不思議なことに、誰も自動車を禁止しようとは言わない。毎年5,000人死ぬことを黙認している私たち。この社会のありようは事故死する人を「前提」としている。そういったことを前提として考えるなら「障害を持って生まれてくる」ということは人間として、生き物として、もっと自然な前提でしょう。ならば「障害を持たないで生まれていれば将来得られたはずの収入」という考え方は十分成り立つはず。そしてそれを保障するのは社会。

ここまでくると、もう「勉学や他者との関わりに対する意欲と両親による十分な支援があったことを考慮すると、将来的には様々な就労の可能性があった」というくだりは陳腐としか思えなくなりました。例えば、教育格差で勉学できる意欲も環境も育たない場合、両親が早くに亡くなられ施設で育つ場合。それは、その者の責任で「将来得られたはずの収入」は低く見積もられる。そして、たまたま恵まれた環境に育つ者は高く見積もられるこ

とになる。ここまできると私の「もやもや」のなかに雷のような「イライラ」が発生してきました。

こうやってしばらく「もやもや」の根っこを眺めていたら、気づくことができました。それは、私は「将来得られたはずの収入」というものを勝手に「その人そのものの価値」とみなしているということ。世の中も私と同様、なんでも金額で人や物の価値をみようとしませんが、それは、あまりに偏ったことでしかない。私やあなたの命に金額はつけられない。

～4月、5月の予定～

4月4日（火）新年度開始日

5月3日（水）憲法記念日

5月4日（木）みどりの日

5月5日（金）こどもの日

※ その他の予定（個別面談、事業計画説明会）は、新年度を迎え、決まり次第その都度ご連絡致します。

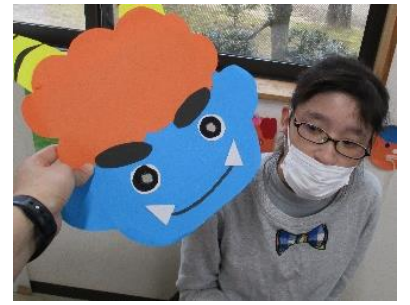
「けやき」ミニ・ギャラリー

① 豆まき

2/3 にけやきでは豆まきを行いました。鬼になりきった職員が各部屋を回り、豆を籠に投げ入れ、利用者さんの表情はとても豊かになりました。鬼の逃げていく様子は、利用者さんと職員の笑い声で溢れました。

（渡邊 千賀子）

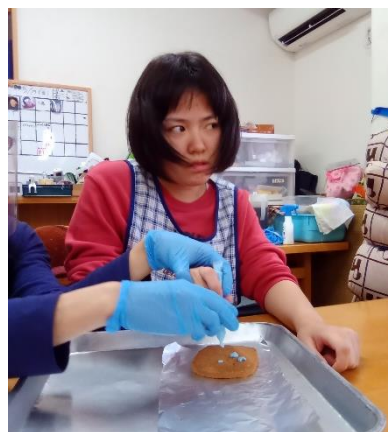
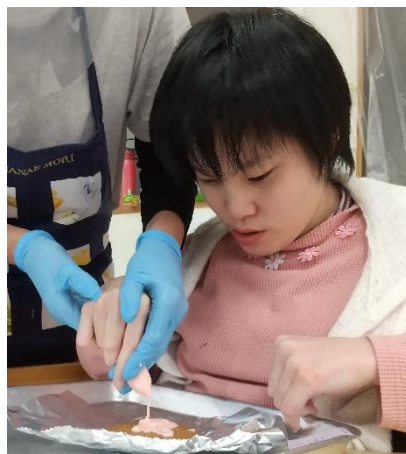
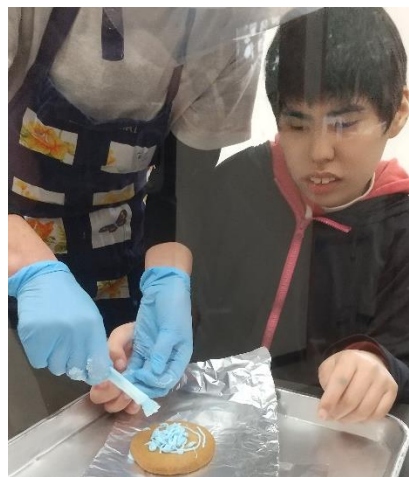


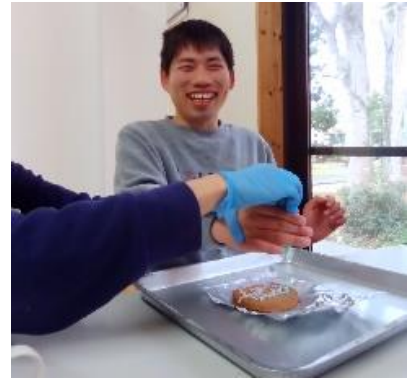


② お疲れ様会（アイシングクッキー作り）

今年度も残りわずかとなった3月17日にイベント「お疲れ様会」を行いました。コロナ感染の懸念からイベントも縮小傾向が続いていましたが、今年度初めての食べ物企画の実施となりました。大きめのクッキー生地にアイシングで思い思いに模様を描き入れていきます。普段の活動の経験を生かして、点描やくるくる丸い模様を描く人、絞りだすのが精一杯の人など様々でしたが、個性豊かなクッキーが仕上がりました。

（藤平 久美子）





③ 日々の活動より ～けやき・ほのぼのアルバム～



～ 職員異動のお知らせ ～

異動	藤平 久美子 (生活指導員)	「けやき」から「榎の木学園」へ
	剣持 慶子 (指導主任)	「つくも幼児教室」から「けやき」へ
新任	松本 彩葉 (生活指導員)	「けやき」へ

チームメンバーの力



日暮 舞

WBC が開幕して、選手たちが熱い戦いを繰り広げていました。その中でも大谷選手は本当にすごい選手ですね。私の中で 1 番注目している選手は村上選手です。最年少で三冠王になり、力のある選手です。しかし WBC では、なかなか自分の力が発揮できずにいるのが、本当に悔しい思いをしているのではないかと思います。その姿を見ていると高校生の時の自分を思い出します。

バレーボールを始めて 12 年。とりあえずそこそこ力のある選手でした。中学 2 年からずっとレギュラーでした。高校 2 年生の時、どんなに練習しても、相手に止められたり、アウトになったり、得点につながるができなくなっていました。いわゆる『スランプ』というものになりました。こんなに打てなくなることがあるのかと思い、周りから励まされることが嫌になり、練習に行くことも嫌になることもありました。その時の監督にもたくさん怒られて、「このチームにはエースアタッカーがないのか。なあ日暮！」と怒られたことを今でも覚えています。それならレギュラーから外してくれれば良いのにと感じていました。

ある日の練習試合でついにレギュラーから外されました。その時は『良かった。これで怒られることもない』と嬉しい反面、コートに自分ではない選手がいることにちょっと嫌だなと思う自分もいました。練習試合が続くにつれ、試合に出られないことへの悔しさが大きくなっていました。だからと言ってその時もなかなか得点を決めることができず、一人でもがいていました。その時、私を助けてくれたのが、チームメンバーです。私のプレーを見てアドバイスをしてくれる人、中には同じようにスランプになった時の話してくれる人もいました。その中で一番気持ちが楽になったのは『舞は絶対決めないといけないと思っているかもしれないけど、失敗してもいいんだよ。そんなプレッシャーに感じることはないんだよ。一人で頑張ることないよ。のびのびやりな。』その言葉を聞いてから気持ちが楽になり、以前のように得点が取れるようになり、レギュラーにも戻ることが出来ました。久しぶりに試合にでて、スパイクが決まった時、『これこれ！私はできるじゃん！』と感覚の戻りを確かめることができたのを今でも覚えています。チームメンバーの力は本当に強いなと思いました。これがなかったら私はバレーボールを続けていないと思います。

侍ジャパンはとてもメンバー思いの選手が集まっていると思います。このチームだからこそ村上選手はきっと以前のように力を取り戻し、活躍すると私は思っています。

チェコ戦とオーストラリア戦で村上選手がヒットを打った時は自分のことのように嬉しかったな。これからの村上選手の活躍を心より祈っています。

編集後記

新型コロナウイルスの影響で、2 月には、けやきとしても長い休所となり、また、再開後も人手不足の関係で満足のご支援ができたとはいいい難い状況もあり、大変ご心配をおかけしました。それでも利用者様の素直な笑顔を見るたびに、自分のできることはできる限り頑張ろうという気持ちになることができます。私たち職員の方が、勇気をもっているのかもしれない。

(小林 則文)